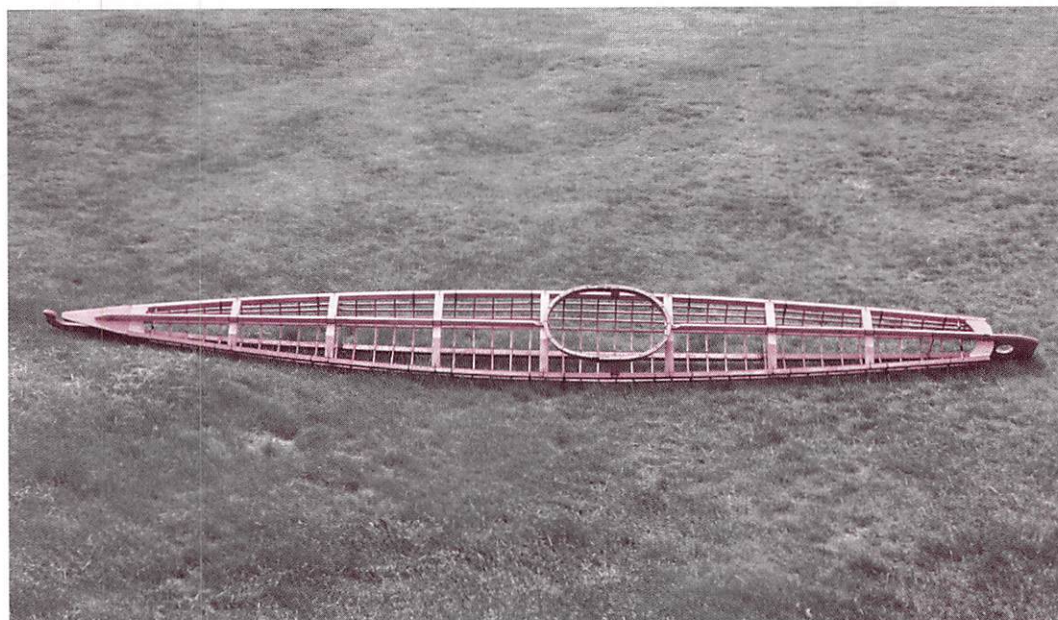




北方民族博物館だより

No.65



復元カヤック（バイダルカ）フレーム

2007年 洲澤育範製作(アリュート 1934年アトカ島タイプ)
(長さ5.16メートル)

木製の枠に、海獣皮を全面に張った小船は、いくつかの北方民族のあいだで使われていた。そのなかで最も精緻に作られているのがアリュートのカヤック「バイダルカ」である。グリーンランドのカヤックの3倍以上の部品を用いて作られているという。なおバイダルカとはロシア語であり、元々の意味は海獣の皮で作った小舟（カヤック）をさすが、現在では特にアリュートのカヤックに使うことが多い。

かつてのアリュートの生活は、地理的にも海に依存した生活であり、バイダルカの利用と切り離して考えることはできない。決して穏やかではないベーリング海に、バイダルカの柔構造とそれを乗りこなす技術は必需であった。バイダルカは移動手段でもあったが、むしろ狩猟道具として位置づけてもよいほどである。

- 1 表紙「復元カヤック（バイダルカ）フレーム」
- 2 「カナディアン・ロッキーと大平原のくに」展
- 4 INFORMATION

「国際博物館の日」記念事業
北海道開拓記念館2007移動博物館
北海道立北方民族博物館企画展

『カナディアン・ロッキーと
大平原のくに
—アルバータにいきづく
多文化—』

2007. 4. 28 - 6. 26

ゴールデンウィークを前に、北海道開拓記念館（札幌市）との共催で、カナダ・アルバータ州の自然や文化を紹介する展示会が始まりました。北海道は1980年にアルバータ州と姉妹提携を結び、学術、文化、農林業、スポーツ分野などの交流を続けています。北海道開拓記念館でも、ロイヤル・アルバータ博物館をはじめとする同州の博物館等と資料や展示会の交換および人的な交流を行なってきており、本展はその成果をもとに構成されたものです。以下に展示の概要と関連行事について紹介します。



最初のコーナーでは、旅行先として人気のあるカナダについて、ロッキー山脈とメープル（サトウカエデ）シロップに代表される自然以外に、「歴史や人びとの暮らしなどどれだけ知っていますか？」という問いを投げかけました。

次に、交流の状況を主に年表や写真、ポスターで示しました。また、スポーツ交流として、姉妹提携前後からアルバータの指導者を招き、オリンピックで活躍するまでに日本人に根づいたカーリングについて、北見市常呂町から資料を借用して紹介しました。

自然と産業のコーナーでは、写真や地図パネルとともに、シュガービート工場で製造された甘味料のサンプル

なども列品しました。同州は太平洋岸のブリティッシュコロンビア州とロッキー山脈で州境を分けており、その東側には大平原がひろがっています。アルバータは北緯49～60度と南北に長く、南部の乾燥地帯から北の針葉樹林帯まで多様な自然環境を有しています。北海道の約8倍の面積を活かした大規模な農業や林業が盛んで、石油や天然ガスといった資源にも恵まれていることも紹介しました。

また、地質についても解説し、州立恐竜公園から出土した7,500万年前のハドロサウルスの脛骨の化石も展示しました。

以上は導入で、メインとなる展示は先住民族の文化と移民の暮らしをとおして、多文化主義の実際を紹介しようとするものです。さらに、ヨーロッパ人がカナダに進出するようになった目的である毛皮交易と、それを担っていたイギリスのハドソン湾会社に関する資料も展示しました。

アルバータ州には、北方のアサバスカン、東よりのアルゴンキン、そして平原のスーといった大きく分けて3つの言語グループに属する先住民族がおり、それぞれの環境に応じた生活を営んできました。当館の常設展では展示していない、南部の平原インディアンのあてやかな衣類をはじめ、祭りに使われる大型の太鼓など、見ごたえのある民族資料も多くも見ていただくことができました。

そして、開拓の歴史のなかで、特にウクライナから移住してきた人びとが、今も祖国の文化を受け継いでいる様子についても紹介しました。

実物および写真パネル等約100点以上の資料をとおして、各地からの移民や先住民族の文化を大切に継承しながら、新しい時代を切り開こうとしている多文化主義の国カナダ・アルバータ州の魅力について、知っていただくことができたのではないかと思います。



オープニング式典後の解説

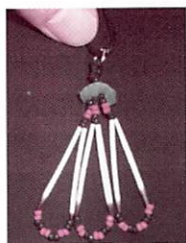
■クイル細工のアクセサリーを作ろう

5月5日（土）には、ヤマアラシの刺を使ったペンダントを作る講習会を開きました。講師の北海道開拓記念館学芸員・池田貴夫氏は、アルバータ州での調査の際、州

都エドモントン在住の工芸家からヤマアラシの刺を使った装飾技術の特訓を受けています。

ヤマアラシはカナダでは珍しい動物ではなく、先住民は肉を食用にし、ビーズが容易に入手できるようになるまでは、その刺を装飾に用いていました。頭胴長55cm程度の大きいものでは、一頭から約4万本の刺が取れるそうです。刺の髄にあたる部分は柔らかくて縫い針も簡単に通すことができ、また、つぶして平らな状態にして使うこともありました。

今回は、現代の工芸品として展示しているピアスと同様に刺とビーズを使い、なみだ型のパーツを三つ合わせた飾りを作りました。講習会は午前と午後の2回開かれ、小学生から大人までの合計40名は初めて触れるヤマアラシの刺が先端部はかなり鋭いことや、プラスチックのようなつるりとした感触に驚いていました。針を刺にまっすぐ挿すことなどに苦労していましたが、同館の会田理人学芸員にも手伝っていただきながら、何とか完成させることができ、貴重な体験とアクセサリーの出来栄に満足していただけたようです。



手前が講師の池田氏



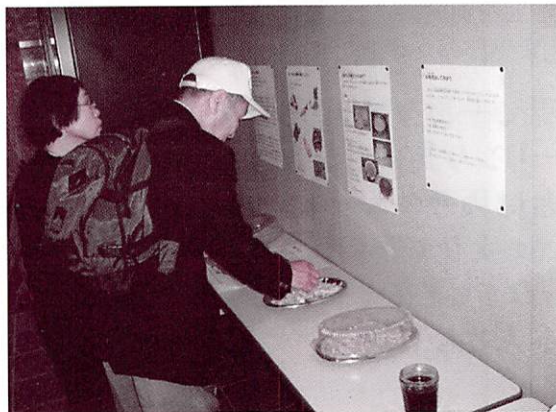
■ビート糖ってどんな味？

同じく5日には、「こどもの日イベント」として、シュガー・ビート（甜菜／サトウダイコン）から手づくりの砂糖（シロップ）をつくる工程や、アルバータ州とビートの関係などについて紹介する展示を行ないました。

日本では、大部分が北海道で栽培されているビートですが、アルバータ州でも主要な農作物の一つとなっています。また、第二世界大戦前の日本からの移民の中には、ビート農場で働く人も少なくありませんでした。

展示はパネルだけではなく、生のビートや煮汁をさらに煮詰めてつくったシロップも並べました。

原料のビートはホクレン中斜里製糖工場から提供していただきました。記してお礼申し上げます。



ビートに関する展示の様子

■講座「アルバータ州の地質と恐竜」

「クイズにチャレンジ&展示解説」

6月2日（土）には、当館であまり機会のなかった地質と恐竜に関する講話と、クイズに答えながら企画展の内容を学ぶという催しが開かれました。

前半は、道立地質研究所の研究員である川上源太郎氏に、写真や地図を豊富に用いてお話いただきました。川上氏は、穂別町立博物館（現むかわ町立博物館）学芸員だった1995年に、アルバータ州ドラムヘラーにある世界的に有名なティレル古生物学博物館で研修をされました。そのときの州立恐竜公園での化石発掘の経験や、資料の整理・保存といった博物館の裏側の様子なども織り交ぜ、アルバータ州からなぜ化石がたくさん見つかるかといった地質の特徴などについて、説明していただきました。



右から出利葉氏、川上氏

後半は、北海道開拓記念館学芸員の出利葉浩司氏に、展示の背景としてカナダの毛皮交易を中心にお話をいただきました。ヨーロッパで流行したフェルト帽子の素材となったビーヴァーや、毛皮を運ぶときに活躍した白樺樹皮製のカヌーなどについて、クイズが出題されました。また、参加者には同館の絵ハガキ等がプレゼントされました。
(主任学芸員・齋藤玲子)

第22回特別展
環北太平洋の文化Ⅱ

**世界で一番ダイナミックな海
ベーリング海に生きる人びと
舞台は極北のベーリング海
自然も文化も歴史もひとめぐり
チュクチもエスキモーもアリュートも
日本人も大活躍**

7月14日 [土] ~ 10月8日 [月]

会場：当館特別展示室

観覧料：

一般450円、高校生・大学生150円

北海道からサハリン、カムチャツカ、アリューシャン列島、アラスカ、カナダそしてカリフォルニア北部に至る環北太平洋沿岸地域は、生物資源や自然環境の共通性から、文化的にも類似性や共通性が指摘されてきました。当館ではこうした環北太平洋沿岸の先住民文化に注目し、四カ年にわたって特別展として取り上げることにし、第2回目はアリュートの復元カヤック（表紙参照）の展示や、これまでにない斬新な展示手法をとりながらベーリング海周辺に暮らしてきた諸民族の文化を中心に紹介します。



INFORMATION

本の紹介



『アラスカ遠征のパイオニア』
第1章 明治大学のアラスカ遠征：
1960年代のアラスカ調査
(祖父江孝男、岡千曲、小谷凱宣、
別府春海、戸沢充則、角達之助)
第2章 岡田宏明のアラスカ・プロ
ジェクト：1972年から1999年まで
(山口敏、矢島國雄ほか)
第3章 アラスカ調査の周辺
(W.B.ワークマン、渡部裕、齋藤玲
子、池田透ほか)
終章 (木脇奈智子、岡田いずみ・イッ
シャウッド、岡田淳子)
B5判 151頁

当館ミュージアムショップで扱って
います。

1部1500円 (送料500円)

職業体験

北海道清里高等学校の2年生が、3日間
の日程で当館で職業体験を行いました。



花

昨年博物館の庭で咲いたマリーゴールドやコスモスの種を配布しました。

6月2日には、(株)インターファーム
から寄贈いただいた苗を博物館の花壇
に植えました。



行事報告

◆博物館クラブ

北方民族のおもちゃづくり

4月21日 [土]

ウイルトアのやじろべえとイヌイトの
ヨーヨーを作りました。

◆博物館体験ツアー

5月19日 [土]

常設展示、企画展示の解説付き観覧
と、博物館のバックヤード見学、イヌ
イトの知恵の輪づくりを行いました。



北方民族博物館だより No.65

平成19(2007)年6月29日発行
編集・発行 北海道立北方民族博物館
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1
電話 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889
e-mail : tonakai@hoppohm.org
http://hoppohm.org

指定管理者

財団法人北方文化振興協会